

浩然

「ふるさとを愛し 自他を大切に
たくましく未来を拓く生徒の育成」

香美町立村岡中学校通信

No. 8 2018. 9. 21 (Fri.)

体育祭 雲押し上げる 熱気あり

雨の影響で二度延期となった第10回村岡中学校体育祭を、11日に開催いたしました。

開会式のあいさつの中で、私は「どんな状況であっても、たとえいい条件でなくとも、一生懸命取り組むこと、それが村岡中学校の矜持(きょうじ)です。矜持とは、誇りや自負・自信という意味です。つまり、それが村中プライドです」と話しました。警報発令に伴う臨時休校も2日あり、もともと練習・準備期間の少ない上に休校や雨が重なったことで、演技の精度や規律の面でも心配はありましたが、3年生を中心に生徒たちは見事にやり遂げました。限られた条件の中でもベストを尽くす姿勢はとても立派でした。



ご来場の方々からいろいろな声をいただきました。「応援やソーランなど、きびきびしていてさわやかでした」「演技を終えた顔もすがすがしい表情でした」「何よりみんなの楽しそうな表情がいい」、PTA役員さんからは「片付けをしていたら、私たちがやります、代わります、と生徒が言ってくれた」等々…。また、「入場行進がとってもいい」「話を聞く姿勢がすばらしい」と、ある地区の元区長さんからもありがたい言葉をかけていただきました。

当日の朝も雨が降ったりやんだりしており、決行するという決断には大きな勇気を必要としましたが、6時半から川のようにになっているグラウンドに職員総出で、PTA役員さん、やがては生徒たちも加わり、スポンジで吸水しながら開催にこぎつけました。他の早く来た生徒たちもテント張りやグラウンド整備に力を尽くしました。30分遅れの平日開催にはなりましたが、水はけのいいすばらしいグラウンドにも助けられ、まさに村岡中全体で作り上げた体育祭となりました。

ご来場いただいた保護者の皆さま、地域の方々、準備や運営を手伝っていただいたPTA役員の皆さまに本校教職員、生徒一同心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

生徒たちの作文等は各学年通信でも紹介しておりますが、掲載しきれなかった3年生の作品の一部を紹介します。

「最後の体育祭」

最後の体育祭で一番心に残ったことは、やっぱり紅白応援です。私は白組の団員を務めました。夏休みの後半から3年の団員が集まり、何をするかとてもとても悩みました。しかし、悩んだ甲斐がありました。シナリオが完成した時、「めっちゃいいやつ出来た」と思えたからです。

練習では、なかなか話を聞いてくれない子や、注意しても直さない人がいて、正直「もうダメや」などの気持ちになってしまいました。しかし、団員のメンバーと励まし合い、「勝つで！」という気持ちで最後まで全力を尽くしました。そして待っていた本番、白組のみん



なが一つになりました。3年間の応援の中で一番いい、最高の応援が出来たのではないかなと思います。結果を聞いた時、うれしいと思ったけど「ありがとう」とも思いました。私たちと一緒に全力で頑張ってくれて、そして優勝でき、白組みんなに「ありがとう」と言いたいです。この応援で学んだことは、最後まであきらめずに頑張ったらいいことがあるということです。これからもいろんなことに挑戦することがあるので、何事もあきらめない姿勢で頑張りたいと思います。

この最高の体育祭になったのは、みんなの頑張りはもちろん、朝早くから運動場の水たまりを一生懸命私たちのためにとってくれた、先生やPTAの人のおかげでもあると思います。このことにも感謝したいです。最後に体育祭、大成功してよかったです。



「今までと違う体育祭」

今年の体育祭は、僕にとって今までにない体育祭でした。

入場行進では、今までと違い、生徒会の一員としてみんなの前を歩きました。去年の夏には自分がこの場所を歩くとは思ってもみなかったです。僕にとっては初めてすることでした。国旗を掲げることも初めてで難しかったです。今年はたび重なる雨で延期になり、気持ち下がってしまうこともありました。体育祭当日も「ない」と思っていました。スポンジで水気を取り、テントの準備をして、いつもより遅いスタートでした。雨が降る時もあり、今日は体育祭したくない、と思う時がありました。

でも、この日だからこそ良かったと今は思っています。みんなで力を合わせて準備して、「先生、他に仕事はありませんか？」と聞いている人もたくさんいました。また、いつもは絶対に手伝わぬ人が積極的に黙々と作業する姿は、違う意味で絶景でした。時に晴れるときもあって、そのたびに「珍しいことをあの人がしたからかな」と思っていました。雨の日だからこそ良かったこともたくさんありました。今年の体育祭は違う意味でも思い出になり、楽しい体育祭でした。

「騎馬戦の姿凛々しき体育祭」



「秋空に 応援の声 響きゆく」

今年は、それぞれ紅白の応援とともに全校応援にも取り組みました。紅白対抗ではありませんが、村岡中が一つになった応援の姿もより迫力があり、感動的で胸打つものがありました。これも恒例の演目にしたいと考えています。

「団結し絆深まる体育祭」

(文責:才田 寛)